

2020年10月期第2四半期  
( 1 9 / 1 1 ~ 2 0 / 4 )

# 決算説明会発表要旨



萩原工業株式会社

(東証一部：7856)

ハミダセ、アミダセ

# 決算説明発表要旨に関して

当社は、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、6月に公益社団法人日本証券アナリスト協会において開催を予定しておりました2020年10月期 第2四半期決算説明会(機関投資家・アナリスト向け)の開催を中止させていただきました。

当社発表内容の要旨を以下にまとめております。

## 新型コロナウイルスの影響

### ○事業の継続のための取り組み

基本的な感染防止策に加え、出張の抑制・禁止などにより社員とその家族の健康を最大限重視しながら、業務の継続に取り組んでおります。今後は感染状況等を踏まえて、安全に配慮しながら徐々に業務の正常化を進めてまいります。

なお生産状況については、通常通り稼働しております。

### ○事業活動への影響

国内外の移動制限が緩和の方向に進みながらも製品納入や販売活動の制約に加え、今後、経済活動の停滞から当社製品の需要縮小が予想されます。

# 決算ハイライト

前期比減収も営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益は増益

## ○合成樹脂事業

- ・官公庁向け防災備蓄の販売増
- ・バルチップ資材確保の動きにより販売増
- ・海外農業資材が天候不順で販売減
- ・フレコンバッグが景気減速による荷動き鈍化で不調
- ・原料価格は総じて下落し、利益底上げ

## ○エンジニアリング事業

- ・キャッシュレス化関連需要で紙スリッターが好調
- ・新型コロナウイルスの影響で立会延期による納品ずれが発生

# 業績内容(売上)

売上高は前期比▲638百万円(-4.3%)

## ○合成樹脂事業は前期比▲249百万円(-2.1%)

- ・販売単価ダウン▲153百万円(主に海外向けバルチップ)
- ・販売数量ダウン▲73百万円(主に海外向けラミネートクロス)
- ・円高による影響▲21百万円

## ○エンジニアリング事業は前期比▲389百万円(-13.2%)

- ・フィルムスリッター等の納品がずれ込み▲147百万円
- ・中国案件はセパレーター用フィルムスリッターが一巡
- ・受注残高は3,831百万円(前期末比+246百万円)

## 業績内容(利益)

営業利益は前期比+120百万円(+9.2%)

○合成樹脂事業は前期比+200百万円(+21.5%)

・主にシート建築資材関連の利益率改善で+161百万円

○エンジニアリング事業は前期比▲80百万円(-21.7%)

・主にワインダー関連機器の販売減で▲49百万円

### 特別利益

○岡山県加賀郡吉備中央町の遊休地を売却+52百万円

## 業績内容(財政状態・戦略製品)

### 貸借対照表

○遊休地売却（315百万円）や保険積立金の解約等により財務基盤の強化と投資余力を確保

### 戦略製品群

○フィルムスリッター、その他高機能化製品の販売減で売上高前期比▲14百万円

	19/10期 第2四半期	20/10期 第2四半期
バルチップ	1,695百万円	1,786百万円
粘着テープ原反	939百万円	998百万円
その他高機能化製品	1,628百万円	1,568百万円
フィルムスリッター	1,831百万円	1,727百万円

## 第3 四半期以降の取り組み

- 原料価格の影響
  - ・在庫量のコントロールで資産評価減の縮小
- 新型コロナウイルスの影響
  - ・訪問を伴わない営業活動の強化
  - ・エンジニアリング事業において、検収作業の効率化

## 2020年10月期通期業績への影響

- 原料価格の影響
  - 原油価格下落に伴いナフサ価格も期初想定価格42,100円/klから20,000円/kl程度まで下落することを想定し、資産評価減を見込んでおります。
- 新型コロナウイルスの影響
  - 国内外で局所的に感染拡大が続き、また第2波の懸念も解消しない中、現時点で業績への影響を正確に見通すことは困難ですが、2ページに記載の新型コロナウイルスの影響を一定程度見込んでおります。

以上の点を考慮し、2020年3月9日公表の予想数値の一部を修正いたしました。  
なお、詳細は6ページに記載の通りであります。

# 当初通期予想からの修正内容

(単位：百万円)

	当初予想	修正後予想	増減
売上高	31,000	28,300	▲2,700
営業利益	2,700	2,450	▲250
経常利益	3,000	2,730	▲270
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,090	1,840	▲250

○上期売上の計画未達▲1,150百万円

○下期売上の下振れ▲1,550百万円

- ・合成樹脂事業の販売数量ダウン▲1,140百万円
- ・合成樹脂事業の販売単価ダウン▲400百万円

## 【資料についてのご注意】

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。

しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しのみにより全面的にご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等を行われぬようお願いいたします。